



東濃地区の子育て・親育ち通信

家庭教育なう

No.3

2025年6月発行

恵那県事務所振興防災課 家庭教育担当 大島
〒509-7203 恵那市長島町正家後田 1067-71

TEL 0573-26-1111〈内線 208〉

FAX 0573-25-7129

MAIL oshima-akihiro@pref.gifu.lg.jp

「家庭教育なう」は、恵那県事務所のHPからご覧いただくことができます。QRコード→



家庭教育学級リーダー研修会への参加 ありがとうございました

今年度も、多くの方にお集りいただきました。ありがとうございました。

昨年度に引き続き、対面でのリーダー研修会を実施しました。実際にお顔を拝見して、お話を聞いていただき、みなさんからもお話を伺うことができました。

今回も「つながりが創る豊かな家庭教育」をテーマに「学びのある家庭教育学級をめざして」の研修でした。本研修での「学び」によってこれからの家庭教育学級、家庭教育支援が「子育ての喜び」につながり、親子が元気になる活動の一助となることを願っています。

アンケート集計結果報告 回答のご協力 ありがとうございました

Q-1：市ごとアンケート回答者数

アンケート回答数

234

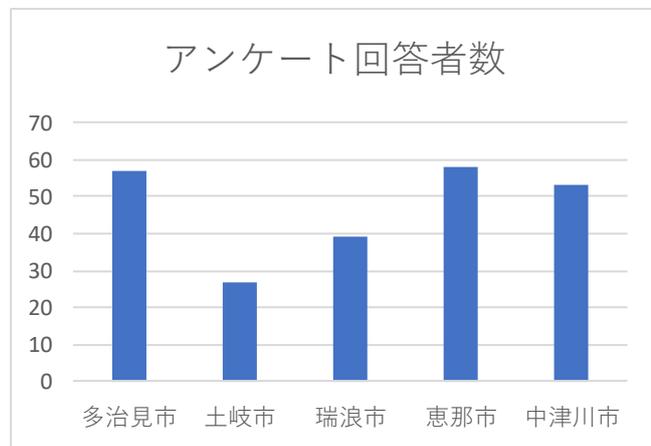
総参加者数

264

回答率

87%

多治見市	57
土岐市	27
瑞浪市	39
恵那市	58
中津川市	53



上記のように、総参加者は264名でした。内訳は保護者107名、学校、園、所関係者119名、市町村関係者38名です。

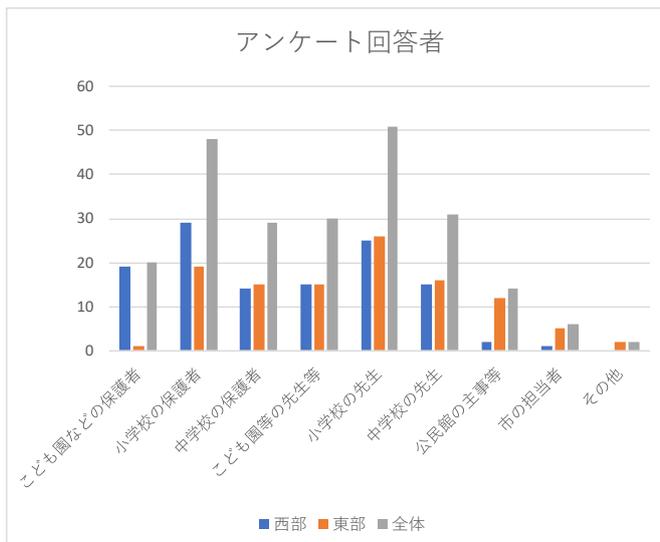
各市よりのご参加、ありがとうございました。本研修の意義を感じていただき、多数の方のご参加をいただきました。小中学校については、ほとんどの学校が、担当する先生、保護者の代表の方の両名にご参加をいただきました。おかげ様で、学校と保護者、双方で家庭教育を推進する機運が高まりました。

今年度は2つの会場での実施となりました。西部地区は、会場が東濃西部総合庁舎でしたので、瑞浪市、土岐市からご参加くださった方には、特にご負担をおかけしました。東部地区は、会場が恵那総合庁舎でしたが、恵那市、中津川市ともに区域が広いので遠方よりのご参加となった方もおみえて、ご負担をおかけしました。

ご回答いただいた意見の中にも「とても大切な研修なので、続けていってほしい。」とあり、研修の意義と参加、参集するご負担のバランスを取りながら、来年度、実施していければと考えています。

Q-2：アンケート回答者

項目	西部	東部	全体
こども園などの保護者	19	1	20
小学校の保護者	29	19	48
中学校の保護者	14	15	29
こども園等の先生等	15	15	30
小学校の先生	25	26	51
中学校の先生	15	16	31
公民館の主事等	2	12	14
市の担当者	1	5	6
その他	0	2	2

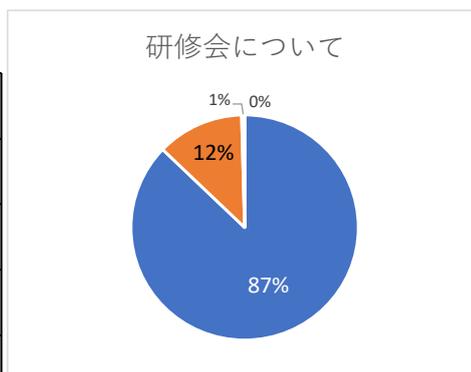


今年度、初めて多治見市の子ども支援課、精華交流センターの方にもご参加いただきました。これまでに参加いただけたことのない新たな事業所の方にも参加の輪が広がっていくことを願います。

また、幼保・乳幼児の部では、幼稚園が減り、子ども園が増える傾向もあってか、市によっては、参加する園、保護者が減っています。参加者から「多くの園、保護者の方に参加してもらいたい。」とのご意見もありました。

Q-3：本日の研修会について

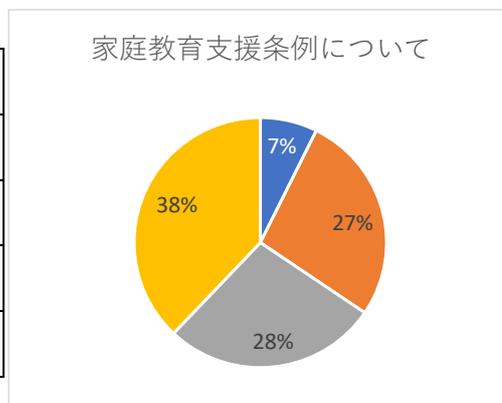
項目	西部	東部	全体	割合 (%)
学ぶところがあった	109	95	204	87
少し学ぶところがあった	13	16	29	12
あまり学ぶところなかった	1	0	1	1
学ぶところなかった	0	0	0	0



多くの方にこの研修の意義をご理解いただき、積極的に研修していただけたことと思います。感想の中にも「他校の情報を知ることができ、たいへん学びになりました。」など、肯定的な意見をたくさんいただきました。

Q-4：家庭教育支援条例について

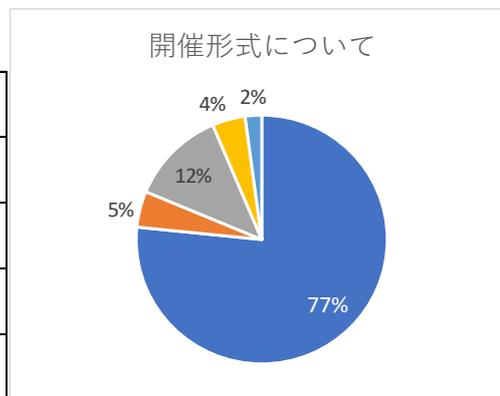
項目	西部	東部	全体	割合 (%)
ほぼ内容を知っていた	9	8	17	7
だいたい内容を知っていた	31	32	63	27
条例があることは知っていた	31	33	64	28
条例があることを初めて知った	50	38	88	38



家庭教育支援条例の認知度がよくわかりました。参加者の4割が「岐阜県家庭教育支援条例」について初めて知ったと回答されていました。特に保護者の方の多くは、本研修で「初めてこの条例を知った」こともわかりました。保護者の立場ではなかなか「岐阜県家庭教育支援条例」について学ぶ機会がないとも言えそうです。

Q-5：開催形式について

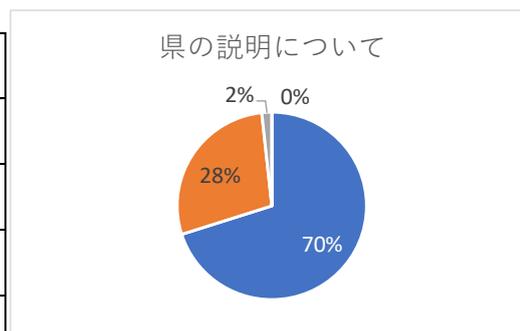
項目	西部	東部	全体	割合 (%)
今回の形式がよい	90	90	180	77
東濃全域から参集する形式がよい	8	3	11	5
各市ごとに参集する形がよい	20	9	29	12
園、学校などからリモートで参加する形式が良い	4	6	10	4
その他	2	3	5	2



東濃地区では本研修会はコロナ禍以降、「参集」しての開催を大切にしてきました。実際に「つながり」をつくるのは、参集型での研修が効果的であると考えてのことです。近年、保護者の方でお仕事をされている方も多く、「参集」への負担があることも聞いています。今年、参加者数は昨年と比べ22名減少しました。(保護者がー18名、職員がー4名)研修会の参加のしやすさについて工夫できればと考えています。

Q-6：県の説明はわかりましたか

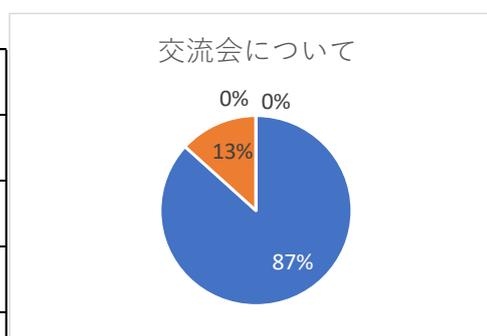
項目	西部	東部	全体	割合 (%)
わかった	91	73	164	70
だいたいわかった	30	36	66	28
少しわかりにくかった	2	2	4	2
わかりにくかった	0	0	0	0



うなずく姿、メモを取る姿など、多くの方に真剣にお話を聞いていただきました。ありがとうございました。

Q-7：小グループの交流会はどうでしたか

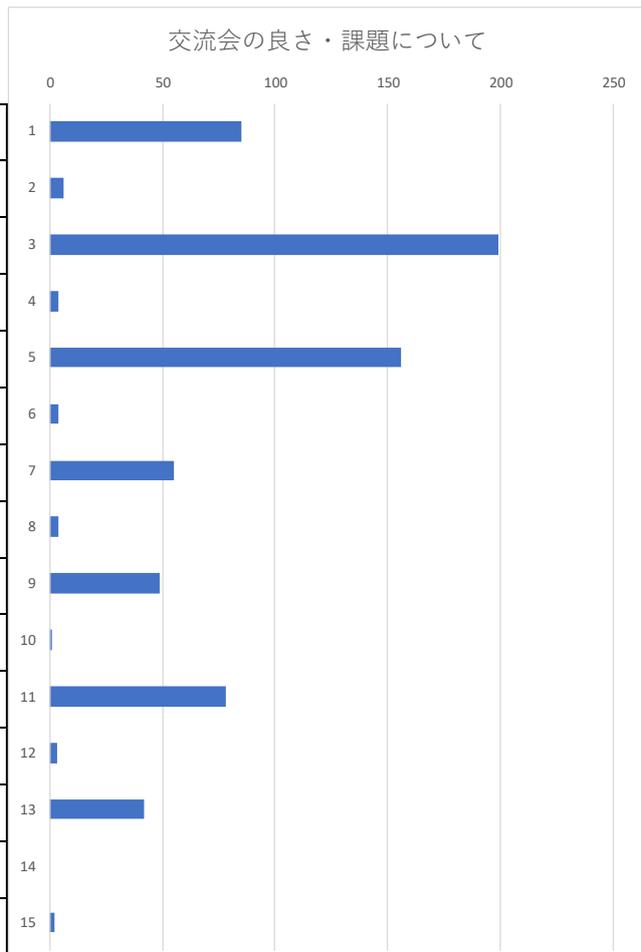
項目	西部	東部	全体	割合 (%)
交流会はためになった	115	88	203	87
交流会は少しためになった	8	23	31	13
交流会はあまりためにならなかった	0	0	0	0
交流会はためにならなかった	0	0	0	0



交流会はどちらの会場でも「ためになった、少しはためになった」との回答でした。熱心に意見を交換する姿があり、主体的に研修していただきました。「交流会の時間が少ない。」という意見を約2割の方よりいただきました。来年度の時間配分の参考とさせていただきます。

Q-8：前の質問の回答理由についてお答えください

項目	西部	東部	全体	割合 (%)
自校の実践がみなさんの参考になった	48	37	85	36
自校の実践についてあまり話せなかった	4	2	6	3
他校（園等）の情報が聞けた	121	78	199	85
他校（園等）の情報があまり聞けなかった	2	2	4	2
他者の意見や考え方を聞くことができた	84	72	156	67
他者の意見や考え方があまり聞けなかった	0	4	4	2
成果や課題がはっきりした	35	20	55	24
成果や課題があまりはっきりしなかった	1	3	4	2
ネットワークが広がった	25	24	49	21
ネットワークが広がらなかった	1	0	1	0.5
ほしい情報を得ることができた	41	37	78	33
ほしい情報が得られなかった	0	3	3	1.5
時間が足りなかった	27	15	42	18
時間をもてあました	0	0	0	0
その他	0	2	2	1

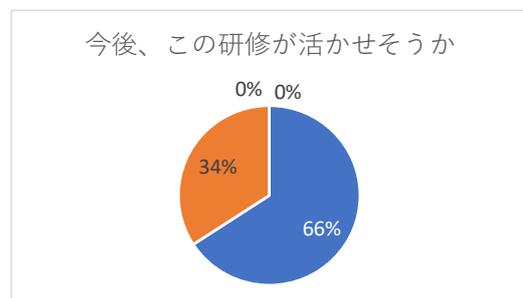


「交流会がためになった」理由の多数の意見を占めたのは「他校、他者の情報、考えを知ることができた」というものでした。今年度のグループ編成は、参加園、校、事業所を 4～6箇所程度、他市の参加者と必ず交流できるように配慮しました。そのため、人数は6名～11名程度とばらつきがでてしまいました。

理由を答える設問は奇数数字の質問が肯定的なもの、偶数数字の質問が否定的なものです。いずれも奇数数字が上回っています。多くの方に積極的に交流会にご参加いただき、必要な情報の収集や、ネットワークづくりのきっかけとなったのではないかと推察します。

Q-9：これからの家庭教育学級の運営・家庭教育支援にこの研修が活かせそうですか

項目	西部	東部	全体	割合 (%)
活かせそう	87	67	154	66
少しは活かせそう	36	44	80	34
あまり活かせそうにない	0	0	0	0
活かせない	0	0	0	0



参加者のすべての方に、「活かせそう、少しは活かせそう」と回答いただきました。

本研修に向けて、お仕事の時間をやりくりし、都合をつけて参加して下さったみなさんに、参加した甲斐があったとらえていただき、うれしく思いました。ありがとうございました。

来年度も、参加者のみなさんと家庭教育推進について連携し、多くの方に家庭教育支援の輪を広げていただくと考えています。今後ともよろしくお願ひします。